



但馬水産技術センターだより



漁況情報 (G1106号)

平成23年10月27日

兵庫県立農林水産技術総合センター
但馬水産技術センター 発行

平成23年度ズワイガニ漁況の見通しについて

調査船「たじま」による調査結果等から見た今期のズワイガニ漁況の見通しについて報告します。

1. 今漁期の見通し

- ①解禁直後(但馬沖漁場):但馬沖全体で、メスがに(クロコ)、オスがに(硬がに)ともに、漁獲量は前年を上回ると見られる。漁場はメスがにでは水深 240-250m 付近に、オスがに(硬がに)では水深 235 ~275m を中心に形成されよう。
- ②漁期全般:日本海西部海域全体のズワイガニ資源量は前年よりやや減少すると見られ、全体として漁獲量は前年並みか前年をやや下回る可能性がある。隠岐東方~浜田沖が主漁場となろう。

2. 根拠となった情報

① 但馬沖漁場

調査船「たじま」によるトロール漁期前調査(調査月:10月)

調査船「たじま」により、平成23年10月11~17日に、但馬沖の水深200~350mに設けた計14点(図1)でトロール網試験操業(袖先間隔28m、3ノット、30分曳き)を実施した。

・メスがに:水深240~250mで入網が多く、分布の中心は津居山沖が240~245m、香住沖が245~250m、浜坂沖が240m付近だった。保護区近傍で入網数が比較的多かった。(図2、付表1)

メスがに漁場となる240~250m水深帯での1曳網当たり入網数は65.0匹で、前年(42.6匹)を上まわったが、過去5年平均(78.9匹)には及ばなかった。(図3、付表2)

・オスがに(硬がに):水深235~275mを中心に入網し、300・350mでは少なかった。(図2、付表1)メスがに漁場水深に分布が集中した前年より分布範囲がやや沖合に拡大した。

但馬沖200~350m水深帯での1曳網当たり入網数は2.2匹で前年(1.4匹)を上回ったが、過去5年平均(4.2匹)を下回った。(図3、付表2)

甲幅13cm以上の大型個体(13脱皮齢)の割合が比較的高かった。(図4)

・ミズがに:水深300mおよび225m(特に300m)で脱皮直後の個体が多数入網した。(図2、付表1)

② 隠岐周辺漁場

水研調査(調査月:5-6月) (独)水産総合研究センターは、A海域(富山県以西)における平成23年のズワイガニ資源重量について平成22年よりやや少なくて推定している。<http://abchan.job.affrc.go.jp/digests22/index.html>より平成22年度資源調査票(詳細版)を参照

3. その他の情報

・但馬沖の水深300m付近には甲幅75~95mm前後のオスの若齢がにが、水深235m付近にはメスのアカコが多く入網した。この年級群は、前後の年級群より目立って個体数が多い。(図4)これらは来シーズンミズがにやクロコとなるので、多量に入網する海域では操業自粛や迅速な再放流に努めて下さい。

4. 他魚種の情報

・アカガレイは水深240~250m(かに解禁前操業自粛水深)で多く入網した。(付表1)

・エチゼンクラゲは但馬沖、隠岐周辺の全ての調査点で、全く入網しなかった。

(ただし対馬海峡の底びき網や但馬管内の定置網から入網報告が届いているので注意を要する。)

お問い合わせ先:兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター (担当:大谷)

TEL:0796-36-0395 FAX:0796-36-3684

E-mail:nouringc_tajima@pref.hyogo.lg.jp

ホームページ:http://hyogo-suigi.jp/tajima/

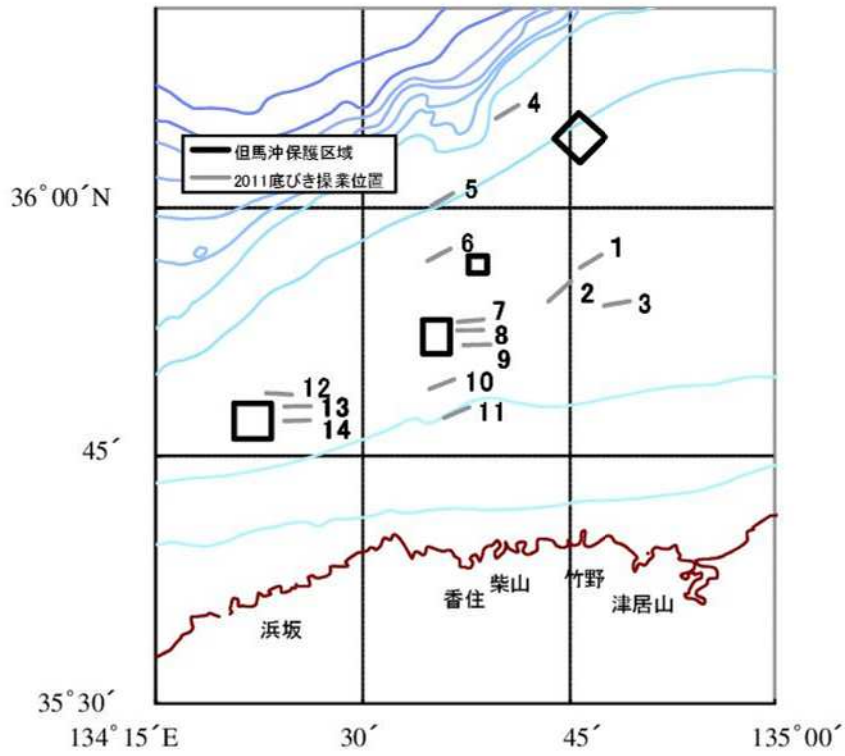


図1 但馬沖調査海域図

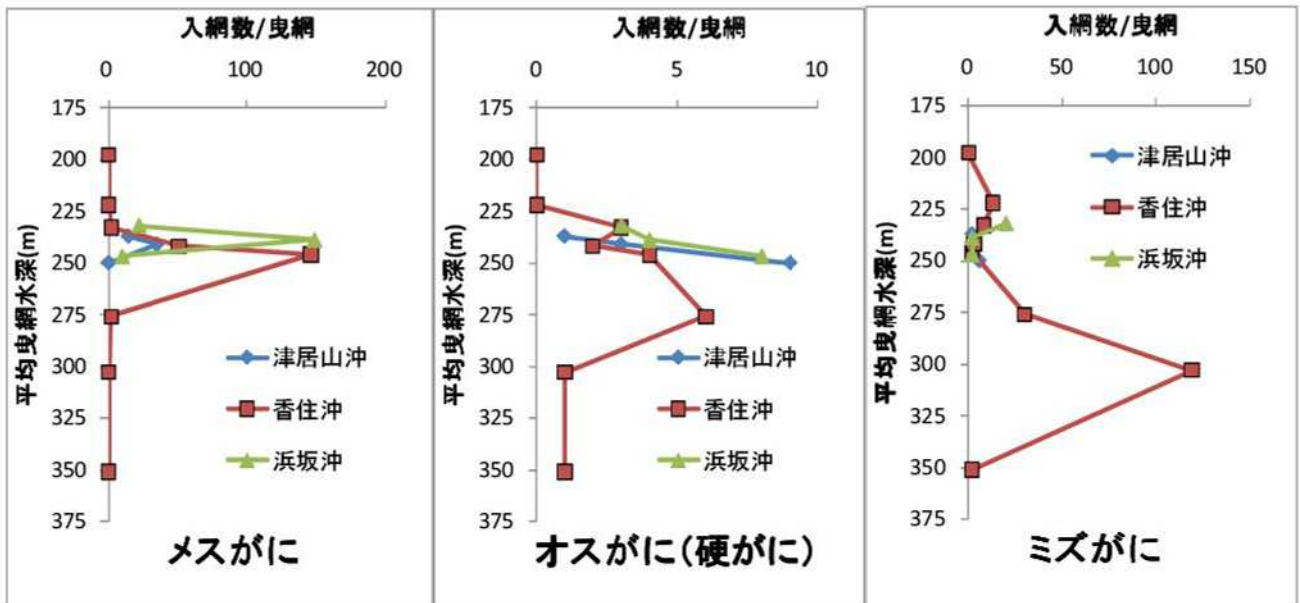


図2 平均曳網水深と入網匹数(但馬沖)

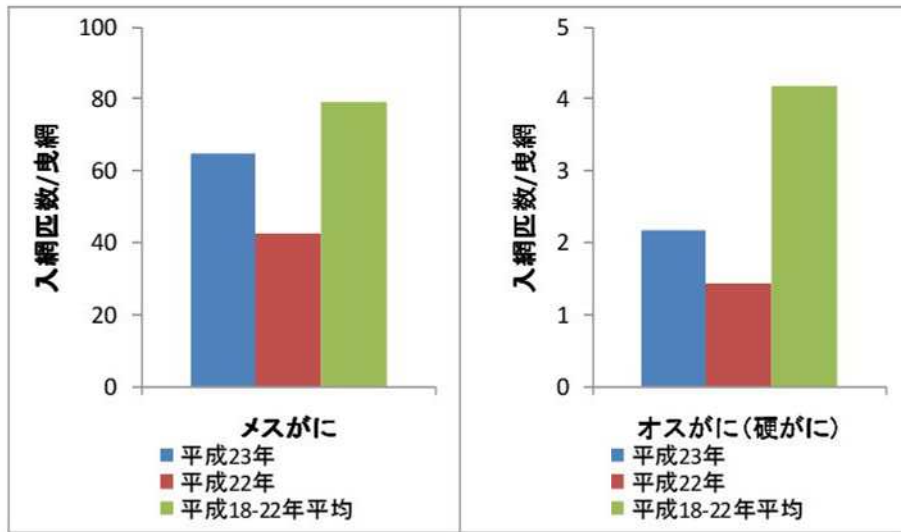


図3 平均入網匹数の過去との比較(但馬沖)
 (メスがに:240-250m平均、オスがに:全水深帯平均)

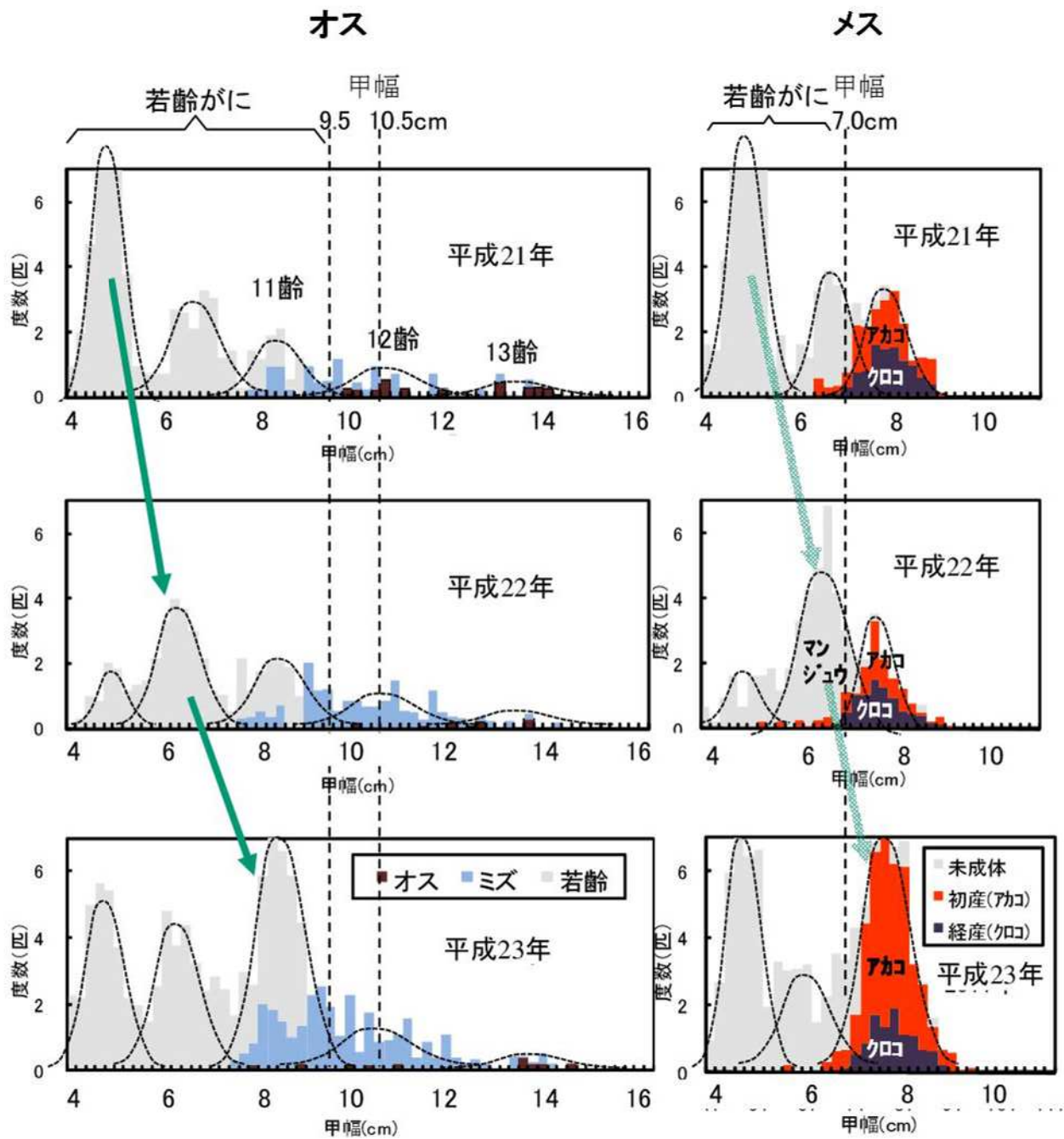
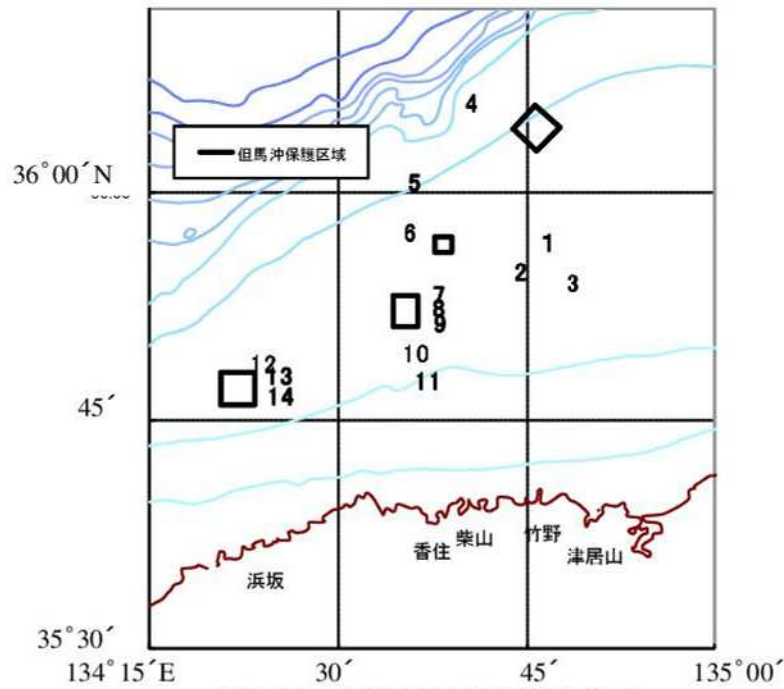


図4 トロール網による近年のズワイガニ甲幅組成(平成21-23年)
(10月、但馬沖水深200-350m、1曳網当たり)



付図1 但馬沖調査海域図

付表1 操業点別のズワイガニ等入網状況

漁場	操業点	曳網水深 (m)	ズワイガニ 入網数(匹/網)			アカガレイ 入網重量 (kg/網)	イセシエンクラゲ 入網重量 (kg/網)	海底 水温 (°C)	備 考
			オス*1	ミス*2	メス*3				
津居山・ 竹野沖	1	252→249	9	6	0	23.3	0	1.9	
	2	243→239	3	2	35	10.5	0	2.1	
	3	236→238	1	2	14	15.4	0	2.1	
香住沖	4	350→354	1	2	0	4.5	0	0.5	♂若齢・脱皮直後のカニ多い。
	5	304→303	1	119	0	3.3	0	0.8	
	6	276→276	6	30	2	11.1	0	1.2	
	7	249→243	4	2	146	44.2	0	1.4	
	8	245→239	2	3	51	30.1	0	1.5	
	9	238→229	3	8	2	4.8	0	1.6	
浜坂沖	10	222→221	0	13	0	3.0	0	2.0	
	11	199→198	0	0	0	1.1	0	2.8	
	12	252→249	8	2	10	14.4	0	1.7	ヤケガにやや多い。
13	240→237	4	2	148	30.6	0	1.7		
14	234→230	3	20	22	8.6	0	1.9		

*1 硬がに(甲幅9cm以上・硬甲・ハサミ大) *2 漁期中にミスがにになる個体 *3 漁期中にクロコになる個体

付表2 曳網当たり入網匹数の前年および過去5年平均との比較

水深帯	漁場	調査年	ズワイガニ 入網数(匹/網)		アカガレイ 入網重量 (kg/網)	イセシエンクラゲ 入網重量 (kg/網)	海底 水温 (°C)	備 考
			オス	メス				
メス漁場水深帯 (240-250m平均)	津居山・ 竹野沖	平成22年	6.7	31.0	6.0	0.0	1.9	
		平成23年	6.0	17.5	16.9	0.0	2.0	
	香住沖	平成22年	2.7	24.7	31.6	0.0	2.2	
		平成23年	3.0	98.5	37.1	0.0	1.5	
	浜坂沖	平成22年	4.5	72.0	69.4	0.0	2.2	
		平成23年	6.0	79.0	22.5	0.0	1.7	
	但馬沖 (平均)	過去5年平均*4	5.1	78.9	19.4	66.3	1.8	漁場別平均
		平成22年	4.6	42.6	35.7	0.0	2.1	〃
平成23年		5.0	65.0	25.5	0.0	1.7	〃	
全水深帯 (200-350m平均)	但馬沖 (平均)	過去5年平均*4	4.2	-	11.2	82.7	1.7	水深帯別平均
		平成22年	1.4	-	11.8	0.0	2.1	〃
		平成23年	2.2	-	8.1	0.0	1.5	〃

*4 平成18-20年は平均袖先間隔比で補正(×1.4)